

報道関係者各位


 不動産の達人
株式会社さくら事務所

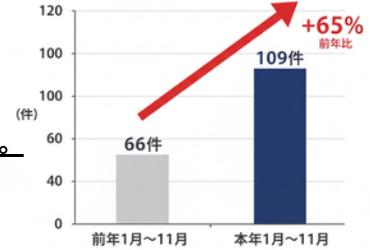
カビ相談、前年比65%増 — あなたの家は大丈夫？ 年末大掃除で必ず見直したい「3つの見落としポイント」

個人向け不動産コンサルティングや住宅診断を手がける「株式会社さくら事務所」（東京都渋谷区／代表：大西倫加）は、年末の大掃除シーズンに向け、家庭で見落としがちな“カビ対策”について、注意すべきポイントと効果的な防止策をまとめました。新年を清潔で快適に迎えるために、いま確認しておきたいポイントをご紹介します。本件に関する取材・ご質問は、下記までお気軽にお問い合わせください。

今年は特に注意！カビ相談は前年比 65%増

近年、築浅住宅から中古まで幅広い住まいで「カビに関するトラブル」が目立っています。当社でも2025年に入りカビに関する問い合わせが増えており、11月までに109件に達しました。前年比で65%増となり、住宅でのカビ問題が深刻化していることがうかがえます。

この一年で急増したカビ相談件数



出典：さくら事務所調べ（2024年1月～11月／2025年1月～11月）

カビトラブル増加の背景

- 異例の高温多湿**
夏期に例年以上の高温多湿が続き、室内ではカビが発生しやすい状況が長期化
- 断熱・気密性能の向上**
性能向上で快適性向上の一方、湿気が逃げにくく、住まい方にコツがいる住宅も
- 湿度リスクの周知不足**
24時間換気や収納・家具配置など、“湿気をためない住まい方”が浸透していない
- 湿気がこもるのは高気密住宅だけではない**
アルミサッシ普及以降は高気密・高断熱住宅かどうかに関わらず“空気が動かない場所”でカビが発生しやすい

カビがもたらす深刻なリスク

- 健康被害**
アレルギー、喘息、肌荒れなどが悪化する可能性
- 住宅寿命の短縮**
木材腐朽菌が繁殖し、見えない部分から構造劣化が進行
- 資産価値の低下**
売却時の印象悪化や補修費用の発生リスクも

カビの増殖条件は「空気・栄養源（ほこり・皮脂）・温度・湿度」の4つ。中でもカビの多くは湿度60%を超えると活発になります。このため、もっとも効率的な予防策は「ほこり（＝栄養源）の除去×換気環境の改善」です。年末の大掃除は、ほこりを集中的に減らし、湿気がこもらない“住まい方”へ見直す絶好のタイミングです。

大掃除で差がつく！～カビを防ぐ3つのポイント～



換気・フィルターまわり (24時間換気／浴室・トイレ／エアコン)

- ✓フィルターの詰まり
換気が十分にできず、湿気がこもる
- ✓エアコン
換気とは別原因で、冷房運転で発生する結露が残る →カビが繁殖
- ▶対策
 - ・フィルター洗浄（重度の汚れは交換）、24時間換気は常時ON
 - ・エアコンは季節ごとの内部清掃と「送風運転」で結露を残さない



収納・家具裏 (空気が動かない場所)

- ✓外壁側収納、家具裏、サッシ周り
室内外との温度差が生じやすく湿気・ほこりが溜まりやすい。
→カビの温床に
- ▶対策
 - ・収納物を全て取り出して換気
 - ・家具は壁から5センチ離す
 - ・カビはアルコールで拭取
 - ・サッシのほこり除去



床下収納・床下空間

- ✓床下は湿気がこもりやすい構造
日常的に開ける機会がないため湿気やカビに気づきにくい
カビ臭＝床下全体や壁内の広がり可能性
- ▶対策
 - ・床下収納を開けて状態確認
 - ・可能なら床下空間も点検
 - ・異臭・湿気は専門家へ相談
 - ・食品保管は避ける

さくら事務所について

株式会社さくら事務所は「人と不動産のより幸せな関係を追求し、豊かで美しい社会を次世代に手渡すこと」を理念として活動する、業界初の個人向け総合不動産コンサルティング企業です。1999年、不動産コンサルタント長嶋修が設立。第三者性を堅持した立場から、利害にとらわれない住宅診断（ホームインスペクション）やマンション管理組合向けコンサルティング、不動産購入に関する様々なアドバイスを行う「不動産の達人サービス」を提供、74,000組を超える実績を持っています。

住まいに関する相談はコチラ



株式会社さくら事務所

広報室：堤・新谷


 東京都渋谷区桜丘町29-24 桜丘リージェンシー101
 
press@sakurajimusyo.com

 03-6455-0726
 
 FAX 03-6455-0022


<https://www.sakurajimusyo.com/>